

心の宝物

小山祐太

滋賀県・一五・中学生

父は暴力、母は自己愛者、全てを破壊しようとする親類や兄の障害に対する世間の白い目、親類の罵声。そんなゴミ溜めのような家系に生まれた。

たたみかけるように襲ってきた祖父の死、そして父の死。涙を流すことができなかった。むしろできるはずもなかった。祖父も父も、それ程の人間だったのだ。

だが君は、涙を流さないことに何かを悟ったのか、誰よりも悲しみ、励ましてくれた。そんな君に、ありがとうって言えなかった。ごめんって言えなかった。

その時、君の心がわかる程の心じゃなかったから。

それから君は、いつも笑顔で声をかけてくれた。「元気」と「勇氣」をくれたんだ。星のように心に輝き宿しながら、誰よりも心配してくれたんだ。全ての不幸が、流れ出ていくような気がしたんだ。

佳作
佳は、ずっとずっと変わらない。
これはからどんな心の持ち主が現れようとも、君は世界一優しく、強い人。その気持ち

あの時送るべきだった君への言葉を送る。漆黒の闇の中から救い出してくれて、ありがとう。君は一生、僕の心の宝物。

*父も母も信じられなくなった。父の死の時に、誰よりも一生懸命はげましてくれたのが、その女友達Fさんでした。そのとき素直に「ありがとう」が言えなかった。